

TAKE FREE

ウイスキー

フアン・パブロ・レベージャ、パブロ・ストール監督作品
 出演: アンドレス・バソス、ミレージャ・バスクアル、ホルヘ・ボラーニ
 原簿: WHISKY / 2004年「ウルグアイ映画センター」トワイブスベイン
 94分 / カラー / 1.1.85 / DVB-SHD
 提供: ビクター・エンターテインメント / ソフトエンターテインメント
 配給: ビクター・エンターテインメント
 放映: 在日ウルグアイ大使館、日本バルコネール観光局
 独立行政法人 国際交流機構 (JICA)
 協賛: フォックス・ブラジル放送、株式会社ウイスキー・ワールド
 協力: 興下製

WHISKY

さあ、みんな笑って!

ウイスキー…?

...

無表情なのに無性に可笑的い、
 そんな奇妙な作品。
 まるで南米版アキ・カウリスマキ。

■バラエティ……米

快拳!!

南米ウルグアイ映画が数ある強豪を抑え、 グランプリ受賞!!

2004年リマ・ラテンアメリカ映画祭 主演女優賞・脚本賞
 2004年マナキ国際映画祭 審査員特別賞
 2004年グラマド映画祭 グランプリ・主演女優賞・観客賞
 2004年シカゴ国際映画祭 監督賞
 2004年ウエルバ・ラテンアメリカ映画祭 グランプリ・監督賞
 2004年サンファン・シネマフェスト グランプリ
 2004年テサロニキ国際映画祭 主演女優賞・脚本賞
 2004年ハバナ映画祭 グランプリ
 2005年ゴヤ賞 最優秀外国映画賞
 2005年マイアミ国際映画祭 主演女優賞

2004年東京国際映画祭
 グランプリ・主演女優賞
 2004年カンヌ国際映画祭
 オリジナル視点賞・国際批評家連盟賞

“ウイスキー”は幸せの合言葉。

ひとつの嘘にふたつの作り笑い——

みつつの平凡な人生がほんの少し変わり始める…



ABOUT THE CINEMA

日本から一番遠い国、南米ウルグアイの
 映画が遂に日本初公開!!
 年に1本の映画も作られていない国から、
 世界中を虜にする傑作が誕生!

カンヌ国際映画祭でのワールドプレミアで、「無表情なのに無性に可笑的い、まるで南米版アキ・カウリスマキ」(バラエティ/米)、「やんわりとしたユーモアが漂う、すべてにおいて尖べきな作品」(デア・ターゲシュビーゲル/独)と絶賛され、オリジナル視点

賞と国際批評家連盟賞をダブル受賞。そして東京国際映画祭でのグランプリと主演女優賞受賞の快拳。ブラジルとアルゼンチンという南米の大国に挟まれた小国ウルグアイ。そこから生まれた一本の傑作が、世界中の人々を虜にしている。

時、「ウイスキー」と微笑む三人。その瞬間、ぎこちない関係が解消したかのように見える。小さな嘘を重ねる内に真実の姿が見え隠れる。そして、彼らの平凡な人生が少しずつ少しずつ変わり始める…

“ウイスキー”は幸せの合言葉。

ウルグアイの町。無口な靴下工場経営者ハコボとその工場で助手として働く、逆さ言葉が得意の真面目な従業員、マルタ。二人は一緒に仕事をしていても、必要な会話を交わす以上の関係になることはなかった。朝になると工場に行き、シャッターを開ける。そして今日も同じ日がやって来る—。

しかし、ハコボの弟、ブラジル仕込みの陽気な男エルマンの久しぶりの帰国が、彼らの生活を変えていく。ハコボは弟が滞在する間、マルタに夫婦の振りをしたいと頼み、ほとんど他人同士の三人のぎこちない共同生活が始まる。一緒に写真を撮る



逆さ言葉が得意の
 真面目な従業員、
 マルタ

ブラジル仕込みの
 陽気な男、
 エルマン

無口な
 靴下工場経営者、
 ハコボ



フアン・パブロ・レベージャ監督 (前列右から3人目)



左:ハコボ役の Andres Basso
 右:フアン・パブロ・レベージャ監督

写真提供: コマヤピクチャーズ・オンライン

人生をユーモラスかつメランコリックに描く、30歳の監督コンビ

世界中を虜にした本作品の監督は、弱冠30歳同士のコンビ監督フアン・パブロ・レベージャとパブロ・ストール。大学在学中から二人で映画を撮り始めた彼らは、デビュー作「25ワッツ」でロッテルダム映画祭を始め、様々な映画祭で受賞を果たし注目を集める。二作目となる本作では、30歳とは思えない人間観察眼の鋭さを遺憾なく発揮し、人生の可笑しさ、哀しさ、そして素晴らしいユーモラスに描くことに成功している。

すべて説明することせず、観客の想像に委ねる演出法は、ラストで三人が選択した人生の行く先を、観ている者が想像出来るようにしている。それ故に、それぞれの人物が愛しく、彼らの選択を祝福したくなるのである。

豊潤なミニマリズムと、それに応えるキャストの魅力

登場人物はほとんど三人のみで、セリフも少なく、一見するとミニマルな映画のように感じられる本作だが、ここで描かれている人間の行動・感情は普遍的であり、豊潤な意味を持っている。

最小限のセリフと仕方で表現するという難役に見事に応えた三人のキャスト。中でも、東京国際映画祭において主演女優賞を受賞したミレージャ・バスクアルの演技は、審査員をして、「地味な田舎の女性が、明るく受すべき人物に奇跡的に変わっていく姿を見事に演じた」と言わしめたほど素晴らしい。

4.29^祝~

“幸せの合言葉”
 ロードショー!

シネアムーズ
 CINE AMUSE
 EAST & WEST

T. 03.3496.2888 www.cineamuse.co.jp